



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イチネンホールディングス
 コード番号 9619 URL http://www.ichinenhd.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 雅史
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 井本 久子 TEL 06-6309-7890
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 平成25年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	31,673	30.0	2,324	15.8	2,236	21.9	1,397	39.7
25年3月期第2四半期	24,361	2.9	2,006	6.3	1,834	5.1	1,000	△7.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 1,519百万円 (58.5%) 25年3月期第2四半期 958百万円 (△13.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	55.57	—
25年3月期第2四半期	39.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	90,211	17,870	19.8	710.48
25年3月期	85,638	16,628	19.4	661.08

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 17,870百万円 25年3月期 16,628百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
26年3月期	—	12.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,000	11.6	4,700	7.8	4,360	7.2	2,400	4.4	95.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期2Q	25,163,727株	25年3月期	25,163,727株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	11,046株	25年3月期	10,985株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期2Q	25,152,707株	25年3月期2Q	25,152,819株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額につきましては、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間につきましても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2013年4月1日～2013年9月30日)におけるわが国経済は、アベノミクスと呼ばれる経済政策への期待を背景にした円高修正・株価上昇などから一部企業の収益が改善するなど景気は持ち直しの動きがみられるものの、米国の金融政策の動向や財政問題への対応による影響、欧州諸国における債務問題の長期化など、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、株式会社イチネンホールディングスを純粋持株会社とし、傘下の各事業会社が独立経営を進めながら、グループ一体経営を推進しております。

現在、「自動車総合サービス事業」、「ケミカル事業」、「パーキング事業」の各事業を展開しており、「機械工具販売事業」、「合成樹脂事業」にも参入しております。

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、316億73百万円(対前年同期比30.0%増)、営業利益は23億24百万円(対前年同期比15.8%増)、経常利益は22億36百万円(対前年同期比21.9%増)、四半期純利益は13億97百万円(対前年同期比39.7%増)となりました。

第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業経営戦略方針の変化に伴い、セグメント区分を変更いたしました。従来の「リース事業」、「自動車メンテナンス受託事業」、「燃料販売事業」を「自動車総合サービス事業」に集約しております。

なお、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車総合サービス事業>

リースにおきましては、リース契約車両は小型化傾向にありますが、中小口規模の企業を中心にリース化の進んでいない車両需要先をターゲットに新規販売を積極的に行いリース契約の増加に努め、既存顧客との取引深耕にも注力した結果、2013年9月末現在リース契約台数は61,033台(対前期末比1,258台増)となり、リース契約高は121億10百万円(対前年同期比0.8%増)、リース未経過契約残高は484億94百万円(対前期末比3.6%増)となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の強みである高点検率、営業品質を追求しながら、契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約高は28億33百万円(対前年同期比3.5%減)、メンテナンス未経過契約残高は71億13百万円(対前期末比6.5%増)となりました。

燃料販売におきましては、主力である自動車用燃料給油カードは、付加価値の高いサービスを顧客に提供し、他社との差別化を図ることにより、新規顧客獲得並びに販売数量の確保に注力いたしました。

損益面では、リース及び自動車メンテナンス受託において、契約台数の増加と低年式・走行過多車両の入替えを促進し、メンテナンスコストの抑制に注力いたしました。燃料販売では、自動車用燃料給油カードの販売価格の調整を適時・適切に実施いたしました。好調に推移した前年同期に及びませんでした。

この結果、売上高は176億91百万円(対前年同期比3.1%増)、セグメント利益は15億40百万円(対前年同期比4.6%増)となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、工業薬品関連では、主力製品の燃料添加剤の販売数量は減少しましたが、洗浄剤が大幅に増加いたしました。また、化学品関連では、ホームセンター等で販売される個人向け自動車ケミカル製品の販売は減少しましたが、機械工具商向けケミカル製品の販売は堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は53億63百万円(対前年同期比0.4%増)、セグメント利益は4億28百万円(対前年同期比16.5%増)となりました。

<パーキング事業>

パーキング事業におきましては、中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い、駐車場個々の収益向上に努めてまいりました。

この結果、2013年9月末現在駐車場管理件数は764件（対前期末比58件増）、管理台数は19,426台（対前期末比1,792台増）となりました。

損益面では、既存駐車場の収益改善策として、周辺店舗への駐車チケットの販売、月極契約の募集や駐車料金の見直し等、売上拡大策を講じるとともに、運営コストの低減を図ってまいりました。また、新規駐車場が堅調に増加いたしました。

この結果、売上高は20億29百万円（対前年同期比9.4%増）、セグメント利益は2億48百万円（対前年同期比66.5%増）となりました。

<機械工具販売事業>

機械工具販売事業におきましては、当社が2012年8月22日に株式を取得した前田機工株式会社及びその子会社1社において、機械工具及び自動車整備工具の販売を行っております。また、当社が2013年5月29日に株式を取得したタスコジャパン株式会社において、空調工具及び計測工具の販売を行っております。

損益面では、機械工具及び自動車整備工具の販売は落ち込みましたが、空調工具及び計測工具の販売が堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は41億34百万円、セグメント利益は43百万円となりました。

<合成樹脂事業>

合成樹脂事業におきましては、当社が2012年9月27日に株式を取得した株式会社ジコー及びその子会社2社において、合成樹脂製品の設計・製造・販売等を行っております。

損益面では、合成樹脂原料及び工作機械の販売は堅調に推移いたしました。また、遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が落ち込みました。

この結果、売上高は25億14百万円、セグメント利益は50百万円となりました。

<その他>

その他におきましては、不動産の賃貸事業において一時的な費用が発生いたしました。

この結果、売上高は58百万円（対前年同期比3.8%減）、セグメント利益は6百万円（対前年同期比34.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

<資産の状況>

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は353億92百万円となり、前連結会計年度末残高342億80百万円と比べて11億12百万円増加いたしました。これは連結子会社の取得等に伴う「商品及び製品」の増加7億83百万円及び「受取手形及び売掛金」の増加2億37百万円、自動車税等の納付による「前払費用」の増加7億94百万円、ファイナンス・リース取引の契約残高の減少による「リース投資資産」の減少5億84百万円が主な要因であります。

固定資産の残高は547億90百万円となり、前連結会計年度末残高513億22百万円と比べて34億68百万円増加いたしました。これはオペレーティング・リース取引の契約増加による「賃貸資産」の増加24億36百万円、パーキング事業用資産等の購入による有形固定資産「その他」の増加3億29百万円、主に時価評価による「投資有価証券」の増加2億26百万円、連結子会社の取得に伴う「のれん」の増加1億41百万円が主な要因であります。

繰延資産の残高は28百万円となり、前連結会計年度末残高35百万円と比べて7百万円減少いたしました。

以上の結果、資産合計は当第2四半期連結会計期間末残高902億11百万円となり、前連結会計年度末残高856億38百万円と比べて45億73百万円増加いたしました。

<負債の状況>

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は412億85百万円となり、前連結会計年度末残高426億61百万円と比べて13億75百万円減少いたしました。これは、「短期借入金」の減少20億42百万円、「1年内償還予定の社債」の減少10億50百万円、「1年内返済予定の長期借入金」の増加9億15百万円、「未払法人税等」の増加9億59百万円が主な要因であります。

固定負債の残高は310億55百万円となり、前連結会計年度末残高263億48百万円と比べて47億6百万円増加いたしました。これはリース車両の購入資金及びM&A資金の調達による「長期借入金」の増加51億17百万円、「社債」の減少4億61百万円が主な要因であります。

以上の結果、負債合計は当第2四半期連結会計期間末残高723億40百万円となり、前連結会計年度末残高690億10百万円と比べて33億30百万円増加いたしました。

<純資産の状況>

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は178億70百万円となり、前連結会計年度末残高166億28百万円と比べて12億42百万円増加いたしました。これは、「四半期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加13億97百万円、配当金の支払による「利益剰余金」の減少2億76百万円が主な要因であります。

<キャッシュ・フローの状況>

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末より3億42百万円減少し、14億66百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、△2億87百万円（前年同期は△23億33百万円）となりました。これは主に、「税金等調整前四半期純利益」が23億16百万円となったこと、オペレーティング・リース取引の契約増加により「賃貸資産の純増減額（△は増加）」△59億29百万円が「減価償却費」40億56百万円を上回ったこと、「仕入債務の増減額（△は減少）」が△6億3百万円となったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△13億94百万円（前年同期は△25億12百万円）となりました。これは主に、機械工具販売事業に係る「連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出」△9億2百万円、パーキング事業における機器及び構築物の購入等による「有形及び無形固定資産の取得による支出」△8億96百万円、パーキング事業における土地及び建物等の売却による「有形及び無形固定資産の売却による収入」3億32百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、13億39百万円（前年同期は56億76百万円）となりました。これは主に、「借入れによる収入」152億63百万円が「借入金の返済による支出」△116億58百万円及び「社債の償還による支出」△19億61百万円を上回ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、現時点では、2013年7月29日に公表いたしました業績予想に変更はございません。
なお、引き続き今後の業績動向を踏まえ精査しており、修正の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2013年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,819	1,752
受取手形及び売掛金	9,382	9,619
リース・メンテナンス未収入金	1,949	1,911
リース投資資産	16,024	15,439
商品及び製品	1,459	2,242
仕掛品	75	68
原材料及び貯蔵品	274	317
前払費用	1,619	2,413
繰延税金資産	456	639
その他	1,230	996
貸倒引当金	△11	△9
流動資産合計	34,280	35,392
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
減価償却累計額	△26,399	△27,347
貸貸資産(純額)	25,888	28,325
土地	9,538	9,379
その他	11,144	11,654
減価償却累計額	△6,615	△6,795
その他(純額)	4,529	4,858
有形固定資産合計	39,956	42,563
無形固定資産		
のれん	5,236	5,378
その他	340	393
無形固定資産合計	5,577	5,771
投資その他の資産		
投資有価証券	2,552	2,779
長期前払費用	1,189	1,219
繰延税金資産	685	1,025
その他	1,579	1,646
貸倒引当金	△218	△214
投資その他の資産合計	5,788	6,456
固定資産合計	51,322	54,790
繰延資産	35	28
資産合計	85,638	90,211

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2013年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,372	10,275
短期借入金	7,727	5,685
コマーシャル・ペーパー	4,000	4,000
1年内償還予定の社債	2,722	1,672
1年内返済予定の長期借入金	15,039	15,954
リース債務	403	318
未払法人税等	313	1,272
リース・メンテナンス前受金	564	568
賞与引当金	361	503
品質保証引当金	67	51
その他	1,089	983
流動負債合計	42,661	41,285
固定負債		
社債	3,467	3,005
長期借入金	20,954	26,071
リース債務	263	157
退職給付引当金	785	890
役員退職慰労引当金	182	189
資産除去債務	191	205
その他	504	535
固定負債合計	26,348	31,055
負債合計	69,010	72,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	4,155	4,155
利益剰余金	9,761	10,883
自己株式	△6	△6
株主資本合計	16,440	17,561
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	187	308
その他の包括利益累計額合計	187	308
少数株主持分	0	0
純資産合計	16,628	17,870
負債純資産合計	85,638	90,211

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
売上高	24,361	31,673
売上原価	18,103	24,015
売上総利益	6,257	7,657
販売費及び一般管理費		
役員報酬	264	316
給料手当及び賞与	1,447	1,795
賞与引当金繰入額	376	444
退職給付費用	133	138
役員退職慰労引当金繰入額	18	19
貸倒引当金繰入額	△10	△4
品質保証引当金繰入額	—	△9
のれん償却額	209	328
その他	1,811	2,303
販売費及び一般管理費合計	4,251	5,333
営業利益	2,006	2,324
営業外収益		
受取配当金	29	27
仕入割引	—	25
その他	19	74
営業外収益合計	49	127
営業外費用		
支払利息	145	148
支払手数料	34	12
その他	41	54
営業外費用合計	221	215
経常利益	1,834	2,236
特別利益		
固定資産売却益	0	50
投資有価証券売却益	1	57
特別利益合計	1	108
特別損失		
固定資産除売却損	33	29
投資有価証券売却損	2	0
投資有価証券評価損	5	—
特別損失合計	41	29
税金等調整前四半期純利益	1,794	2,316
法人税、住民税及び事業税	332	1,304
法人税等調整額	461	△386
法人税等合計	794	918
少数株主損益調整前四半期純利益	1,000	1,397
少数株主利益	—	0
四半期純利益	1,000	1,397

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,000	1,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	121
その他の包括利益合計	△42	121
四半期包括利益	958	1,519
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	958	1,519
少数株主に係る四半期包括利益	—	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,794	2,316
減価償却費	3,495	4,056
のれん償却額	209	328
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△14	△5
受取利息及び受取配当金	△31	△34
支払利息	145	148
売上債権の増減額(△は増加)	13	409
たな卸資産の増減額(△は増加)	△35	41
リース投資資産の純増減額(△は増加)	421	449
貸貸資産の純増減額(△は増加)	△5,668	△5,929
仕入債務の増減額(△は減少)	△755	△603
利息及び配当金の受取額	31	34
利息の支払額	△142	△159
法人税等の支払額	△828	△440
法人税等の還付額	169	250
その他	△1,137	△1,148
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,333	△287
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△13
定期預金の払戻による収入	—	10
有形及び無形固定資産の取得による支出	△732	△896
有形及び無形固定資産の売却による収入	103	332
固定資産の除却による支出	△2	△3
投資有価証券の取得による支出	△221	△142
投資有価証券の売却による収入	36	195
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,677	△902
その他	△17	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,512	△1,394
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	7,192	3,723
短期借入金の返済による支出	△4,100	△5,965
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	1,500	—
長期借入れによる収入	7,029	11,540
長期借入金の返済による支出	△4,729	△5,692
社債の償還による支出	△920	△1,961
リース債務の返済による支出	△30	△11
配当金の支払額	△226	△276
その他	△37	△16
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,676	1,339
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	831	△342
現金及び現金同等物の期首残高	1,692	1,809
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,523	1,466

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2012年4月1日至2012年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車総合 サービス 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	17,106	5,343	1,851	—	—	24,300	60	24,361	—	24,361
セグメント間の内部売上高又は振替高	59	—	2	—	—	62	—	62	△62	—
計	17,166	5,343	1,854	—	—	24,363	60	24,424	△62	24,361
セグメント利益	1,473	368	149	—	—	1,990	9	2,000	6	2,006

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、前田機工株式会社の株式を取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、「機械工具販売事業」セグメントの資産の金額は、前連結会計年度の末日に比べ、3,574百万円増加しております。

また、株式会社ジコーの株式を取得したことに伴い、同社及びその子会社2社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、「合成樹脂事業」セグメントの資産の金額は、前連結会計年度の末日に比べ、3,968百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機械工具販売事業」セグメントにおいて、前田機工株式会社の株式を取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、のれんが19百万円増加しております。

また、「合成樹脂事業」セグメントにおいて、株式会社ジコーの株式を取得したことに伴い、同社及びその子会社2社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、のれんが937百万円増加しております。

なお、当該のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため暫定的に算定された金額であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2013年4月1日 至 2013年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車総合 サービス 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	17,632	5,307	2,026	4,134	2,514	31,614	58	31,673	—	31,673
セグメント間の内部売上高又は振替高	58	56	2	—	—	117	—	117	△117	—
計	17,691	5,363	2,029	4,134	2,514	31,732	58	31,790	△117	31,673
セグメント利益	1,540	428	248	43	50	2,311	6	2,318	6	2,324

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、タスコジャパン株式会社の株式を取得したことに伴い、同社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、「機械工具販売事業」セグメントの資産の金額は、前連結会計年度の末日に比べ、3,032百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業経営戦略方針の変化に伴い、従来の「リース事業」、「自動車メンテナンス受託事業」、「燃料販売事業」を「自動車総合サービス事業」に集約し、「ケミカル事業」、「パーキング事業」、「機械工具販売事業」、「合成樹脂事業」と合わせた5区分に変更しております。

各報告セグメントの概要は、以下のとおりであります。

- (1) 自動車総合サービス事業 …自動車リース、機器及び各種動産のリース、レンタル業、カーシェアリングサービスの提供並びにリース満了車等の処分、自動車メンテナンスの受託及びこれに付随する中古自動車の販売業務、自動車の点検、法定点検及び整備等の自動車整備業、石油燃料の販売及びガソリン給油カードの募集、卸売自動車用品の販売業務、損害保険代理店業務
- (2) ケミカル事業 …ケミカル製品（自動車用、機械・設備用、工業用等）の製造及び販売
- (3) パーキング事業 …来客用駐車場及びコイン駐車場の運営
- (4) 機械工具販売事業 …機械工具及び自動車整備工具の販売、空調工具及び計測工具の販売
- (5) 合成樹脂事業 …合成樹脂製品の設計・製造・販売、合成樹脂の再生加工及び合成樹脂原料の販売

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、セグメント見直し後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「機械工具販売事業」セグメントにおいて、タスコジャパン株式会社の株式を取得したことに伴い、同社を新たに連結の範囲に含めております。当該事業による当第2四半期連結累計期間におけるのれんの償却額は23百万円、当第2四半期連結会計期間末における未償却残高は446百万円であります。